

113 卵巣癌におけるMKS-15の腫瘍マーカーとしての有用性ならびに免疫組織学的検討

社保大宮総合病院

長尾 充, 義澤百合子, 小林重光, 福島和夫,
久慈直志

【目的】2種の単クローン抗体により認識される抗原MKS-15の卵巣癌診断における有用性を検討し両抗体の特異性を免疫組織学的に検索した。【方法】対象は健常人52例, 子宮筋腫27例, 子宮内膜症15例, 良性卵巣腫瘍23例, 卵巣癌45例(Stage I 17例, II 2例, III 22例, IV 4例)及び臍帯血, 羊水である。MKS-15測定は, 肺腺癌培養上清を免疫源とした510-54, 510-61, の2種の抗体によるEIA kit(持田)にて行った。卵巣癌においては, 各組織型及び臨床進行期とMKS-15値の関係, CA125値との相関を検討した。さらに, 良性卵巣腫瘍20例, 卵巣癌20例につきABC法による免疫染色を施行, 両抗体の特異性を検索した。【成績】Cut off値 20 U/ml (健常婦人のMean+2SD)における各対象のMean±SD(U/ml)および陽性率は, 健常婦人 5.8 ± 6.9 , 6%, 子宮筋腫 5.3 ± 11.5 , 4%, 子宮内膜症 4.3 ± 5.5 , 7%, 良性卵巣腫瘍 3.1 ± 3.5 , 0%, 卵巣癌 259.2 ± 482.3 , 58%(Stage I 24%, II 50%, III 68%, IV 100%), 臍帯血 2.3 ± 0.9 , 0%, 羊水 41.7 ± 23.6 , 78%となり, 卵巣癌及び羊水で高値を示した。卵巣癌において, 組織型特異性は低く, 臨床進行期がすすむにつれ平均値および陽性率は上昇し, follow up例では, 臨床経過をよく反映した。CA125とは $r=0.40$ ($n=25$)と有意な相関を認めた。510-54, 510-61とも主に細胞膜, 一部細胞質に染色性を示すが, 両抗体間の染色性に明らかな相違は認めなかった。【結論】MKS-15は, false positiveが少なく卵巣における腫瘍マーカーとして臨床的に有用である。EIA kitに使用される2種の抗体の特異性の相違は, 光顕レベルの免疫組織学的検索では, 明らかでないことが判明した。

114 卵巣腫瘍とくにムチン性嚢胞腺癌における新しい腫瘍マーカーCA72-4の有用性に関する研究

東京医大

根岸能之, 作永穂高, 藤原 潔, 清水洋一,
務台 讓, 平田貴夫, 岡部一裕, 奴田原裕一,
佐藤博己, 秋谷 清

【目的】卵巣ムチン性嚢胞腺癌に対する優れた腫瘍マーカーが存在しない現在, その開発が急がれている。そこでモノクローナル抗体B72.3とCC49によって認識される癌関連抗原CA72-4を用いて卵巣癌患者を対象に血清値を測定し, 併せてCA125, CA19-9, CEAとのcombination assayを行い, 癌の診断率の向上をはかるとともにB72.3を用い酵素抗体法(ABC法)により抗原の局在も検討した。【方法】対象は健常婦人99例, 良性卵巣腫瘍35例, 悪性卵巣腫瘍62例, 子宮癌18例。研究方法はCA72-4, CA125, CA19-9, CEAいずれもモノクローナル抗体RIAkitを用い測定した。【成績】(1)健常婦人のCA72-4値は年齢, 加齢による変化はみられず, 性周期では増殖期に比較し分泌期に高い傾向を示した。cut off値は 4.0 U/ml と設定した。(2)CA72-4の陽性率は原発性卵巣癌全体で63.2%, そのうちムチン性嚢胞腺癌は77.3%, 漿液性嚢胞腺癌は60.0%であった。子宮内膜症性嚢胞のfalse positiveは42.9%であったが, 良性卵巣腫瘍ではみられなかった。(3)CA72-4とCA125の組み合わせによる陽性率はムチン性嚢胞腺癌で86.4%, 漿液性嚢胞腺癌で85.0%, 4種組み合わせでそれぞれ95.0%, 94.4%であった。(4)CA72-4の抗原局在はムチン性嚢胞腺癌の細胞膜・細胞質に高率にみられ, 特に細胞質に強く認められた。【結論】CA72-4はムチン性嚢胞腺癌に高率に出現し, CA72-4と他の腫瘍マーカーとのcombination assayによってさらに高い陽性率が得られた。そこでムチン性嚢胞腺癌の診断にあたってCA72-4は極めて有用であることが証明され, かつ良性卵巣腫瘍のfalse positiveが認められず, 良・悪性の鑑別診断にも有効であることが示唆された。